

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000638		
法人名	有限会社 木犀		
事業所名	グループホーム 遊友		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1831-2		
自己評価作成日	2022年8月21日	評価結果市町村受理日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆さんとその家族が、遊友で人生の一部分を楽しく、安心して過ごされたと思って頂くことが喜びです。19年経って、家電や設備に故障も出てきましたが、良きスタッフに恵まれて今日までやってこれました。利用者も、ここで働く人もハッピーでありたい、そんな場所であって欲しいと切に願います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常生活にいろいろな制限がある中、代表者(管理者)、職員は心のこもった言葉遣いを心がけ、資質の向上を目指し利用者の尊厳を守り、自立を支え家庭的な環境の中で共に楽しみ、個別ケアや共同生活の支援に努めている。また、家族の理解と協力を得て、利用者の思いを大切に家事を職員の支援のもと、出番や役割を持ってもらい生きがいを取り戻す手助けをしている。家族等の面会は予防対策を行いながら、恒例の餅つきでは、つきたてを配り、お茶会や体操をテラスで行い、ドライブ時に故郷訪問を兼ねてケアの充実を図り、無事にこの難局を乗り越えて行きたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の見やすいところに運営理念を掲げ、介護の実践に繋げている。	日々のサービス提供時の自己評価(言葉かけや行動、記録等)を振り返り、理念がケアに反映しているかを確認している。管理者も職員を牽引するために明確な理念を持ち、その実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナ感染防止の為地域の皆さんとの交流が出来てはいない。	面会や外出の制限のある中、恒例の餅つきを行い、つながりが途切れないように交流継続に努めている。地域の関係者とは運営推進会議時にホームの運営、利用者の状況を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献も、場を与えて頂ければ、個人的には動けるが、場もない状態である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係でなかなか開催出来ていない。4か月に1回の割合開催できれば良いくらい。報告書は役場に2ヵ月分ごとに提出している。	運営推進会議の中に、福祉に詳しいメンバーがいて国内外の福祉情報が学べている。協力的で情報提供もありながら職員へのねぎらいも頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者が変わるのには困るが、コロナの事や提出物のこと等相談に乗ってもらう機会が増えたようにある。	町の担当者とは運営推進会議時や電話連絡等で相談や情報提供を行い、ワクチンの件では密接に連絡が取れスムーズに接種できている。コロナ禍や防災関係の対応も連絡を取り合い、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、当事業所において法に反するような事はない。不適切な行為と思われる行為を重要視して身体拘束に繋がらないよう対応している。	職員は、身体拘束とその弊害を認識し、利用者の思いや行動を拒否することなく、気持ちに寄り添ったケアの取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の段階で上記に記したように虐待に繋がらないよう対応を考えた。それが不適切と思われるケアを洗い出し、無くすように務めることにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されてるケースがあったが、現在は無い。必要性はあるが利用運用が色々な意味で厳しいようだ。自立支援は言うは易し行うは難し。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず、見学してもらい、説明をして安心して入所してもらいたいと心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	このところ、コロナの影響でじっくり話す機会もない。家族もスタッフも無事にこの難局を超える事を最重要と考えている。	予防対策を行い家族の面会を行っている。家族の理解と協力を得ながら、都合のつかない家族には、動画やメールを送り、暮らしぶりや日常の様子を伝えている。相談や苦情等には迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ここでもコロナの影響で職員会・研修会が開催できてない。個別に管理者には届いてはいるが全員に届くのにちぐはぐな所もある。	接遇マナーとして、人目に触れないように新聞紙で作ったゴミ袋におむつを入れてケアを行い、ゴミ袋作りは、利用者と共に作成している等、お茶会の提案も職員のアイデアで取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤専門以外は、月に4回以上の夜勤はさせないことにしていたが、若い2人が5回やるとのことで、60歳以上のスタッフは3回を限度とした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育てる事は十分心がけていた。資格をとりたいと言えば、それに答えるべく対応してきた。ここ数年で3人の介護福祉士が誕生した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県高齢者グループホーム連絡協議会に入会している。コロナのせいで集団で集まることが出来ず、3年ほど停滞気味である。インターネットでは何か足りないものを感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族との面会を重ね、それぞれの意向の確認をしている。 事前にレクレーション等の参加や見学を行い、当施設の雰囲気や設備などを確認してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際しては壁をつくらず、オープンで可能な限り要望に応えられるように接している。入居を前提に信頼を得られるように関係を築くことに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階ではあらゆることを把握は出来ない。半年くらいかかる場合もある。入所してから信頼関係を築いていく。不安が減って安心が増える様に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの取り方は、本人を被介護者としての一方的立場に置かず、年長者に対する接遇を考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院に行くのは原則として家族が行う。夏・冬などの衣類の交換や面会も多く来てもらうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、馴染みの場所や音楽などは心を落ち着かせる大切なものとして提供する。例えば、ドライブの時など懐かしき場所を巡るようにしている。	利用者の日常生活にいろいろな制限がある中、利用者の思いを大切に予防対策を行い、家族の面会支援に努め、馴染みの場所にも訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合わない者同士はなるべく離し、気の合う者同士を近くにしている。利用者同士が支え合う場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつまでもという訳にはいかないが、かなりの間関係性を維持している。お葬式など連絡をいただくことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初めは本人の思いや希望馴染みの暮らし方などを理解し、接することで信頼を獲得し、安心の中で生活していただく。(共同生活という課題を克服していただく方向性。)	利用者の生活歴、日常生活を把握し、日頃から利用者の思いに寄り添って本人の今の思いを大切に、身体状況も把握しながら困難な場合は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	こども共同生活に馴染めるか？接点を探ることになる。(共同生活という課題を克服していただく方向性)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの作成には一人一人の一日の過ごし方、心身の状態、有する力など、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いに応えるためチームによる意見の交換は心がけている。一同が集まる機会は少ないが現状に即した介護計画を作成している。	介護記録の様式を整え、介護計画に連動しやすくし、計画作成者や担当者がモニタリングや計画作成に取り組み、本人、家族、職員等のそれぞれの意見を聞き、一人ひとりに合った介護計画を作成し、随時の見直しもを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、表裏1枚で見ることが出来る介護日誌を中心に記録を取っている。介護計画には介護記録が最も重要だろう。なぜなら、計画の個人別実践状況が記されているからである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例外的に、利用者に週に1日だけ自宅に泊まりを認めているケース。これは柔軟な対応と考えている。今のところコロナの心配を除けば、本人の落ち着きに寄与している。。		

宮崎県高鍋町 グループホーム「遊友」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の暮らしの中で、良く面会に来られている家族を地域資源と呼べるか？コロナで途絶えたことはたくさんあっても、家族だけは何とか本人の支えになって安全に且つ楽しく生活できる支援をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診についてはかかりつけ医を重要視している。従って馴染みの医者をまず大切に接しているが、未だかかりつけ医の決まっていない場合には本人及び家族と相談の上決めることがある。	希望するかかりつけ医や協力医で家族または職員と一緒に受診し、夜間対応できる協力医に変更した2例もある。受診時は共に詳細な情報を提供し連携に努めているが、夜間の緊急時は医療機関の協力が難しく、救急車対応としている。	受診は共に良好な関係を築いているが、夜間は救急車対応にしている。利用者や家族、職員の不安を取り除くためにも、行政、地域の医療機関や協力医と話し合い、救急車要請の頻度を減らす取り組みに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは看護師を置いていない。したがって、比較的早めに御家族と相談して、受診するようにしている。利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	内科的入院はほぼ問題はないが、骨折等の入院はたまにあるくらいで、先生も変わりやすく関係づくりに苦労している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護はしませんので、重度化した時は協力医にお願いすることになっている。事業所方針や終末期への対応は説明はしている。個別に協議もしている。	「看取りをしない事」を入居時に説明している。明文化した文書に基づき、事業所で出来ないことを説明し、同意書をもっている。介護度の変化では、早めに家族や関係者と話し合いの場を持ち、全職員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生にはまず、管理者(施設の隣に在住)に連絡すること。応急手当や初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年6月、12月に訓練している。地域との協力体制もある。	年2回、災害を想定した訓練を近隣住民と行っている。災害対策は行政との関連が深く積極的にBCPの作成に取り組んでいる。地域住民の避難所として事業所の特質を活かした取り組みも考えている。備蓄も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守り、言葉かけや介助の仕方に気を付けて接するようにしている。	コロナ禍で十分な研修は行えていないが、一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけを行うことを心掛け現場を学習の場としている。「真心からの言葉かけが利用者の心へ必ず届く」と真摯に受け止めて支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は可能な限り優先している。着る服の選択やレクへの参加・不参加などは問題ないが、服薬や入浴などの拒否などは苦慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員がそれぞれの日々を送って下さるのは、最もこちらの望むところである。それぞれの希望に出来るだけ沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、多数である。認知症の軽い人は問題ないが、こちらで選んであげたり、着せてあげないといけない人が多数である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は最も楽しみな時間であるから、楽しく食べていただきたい。スタッフも一緒に食事をし、後片付けなども一緒にしている。	何よりも楽しんで食事ができることに力を入れている。利用者の嗜好、雰囲気作り、身体機能別食事形態別対応等、楽しく安心して食事ができる支援を行っている。自宅の茶碗類を使用し利用者と職員と一緒に食事や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くは自分の好みより、周りに気遣って食べてくださるようだ。少数の人が自分の好き嫌いで残される。水分も食事量も記録している。健康診断の一助にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後にするようにしている。概ね介助ですが、自力でする人も声掛けは欠かせない。		

宮崎県高鍋町 グループホーム「遊友」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排泄の失敗やオムツの使用は少なくしたい。なるべくトイレでやっていただきたいので声掛けを忘れない様に心がけている。	個々の排泄パターンや生活習慣を把握し、トイレ誘導を行い、失禁を減らすことと本人の不安や恥じらいを取り除く支援に努めている。現在、リハビリパンツが多数だが布パンツ1名自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を摂るようにしている。食事や水分からと整腸薬などで便秘になるのを予防して苦しまれない様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきに入っている。時間は13時から17時の間に入って頂いている。順番は本人に訊ねて決める。日に入る人数は4人又は5人である。	入浴を楽しみにしている利用者とのコミュニケーションを取りながら楽しい雰囲気づくりに努めている。熱発や血圧が高い場合など、それぞれの症状に合わせた対応を行っている。季節によりゆず風呂等楽しみを取り入れた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその時々々の状態に合わせて自室のベッドや、畳上、ソファであったり、休憩して頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当者はいるが、みんなで勉強している。特に副作用については警戒している。また、間違わない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の張り合いや喜びは概ね把握しているのでそれが実現できるように介護支援している。例えば、ドライブ、歌、ゲーム(ジグソーパズルなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブは気分転換になるようだ。家族との通院だって外出支援、このところ、コロナのせいで地域での交流はほぼない。	コロナ禍で制限が多くなっているため、日頃は事業所内や広い庭でそれぞれが職員と散策している。また、定期的に2~3名をドライブで馴染みの場や地域を訪問し気分転換を行う支援に努めている。家族との面会や受診もコロナ感染予防の対策を取りながら楽しむ支援として工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは、お金については、ほぼ自分では持たないで過ごすようになっている。家族に買っていただくか、スタッフで購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている人も1名いる。電話してくれとの要望があればします。手紙を書きたい人がいれば、封筒、ペン、便箋など用意して書いて貰ったことはあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつもリビングで過ごしていただいています。天井高く空間を広くとってあり圧迫感のないような環境を意図しています。	感染予防対策は、環境整備等の業務が以前より煩雑になっているが、職員は、利用者の健康管理のため共有空間の衛生管理を行いながら、ゆったりし、居心地よく過ごせるように努めている。共有空間には季節の植物を取り入れ、利用者の作品を掲示する等工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人と、過ごせるようにテーブルも離して置いてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に装飾できるようにしてあります。がリビングで日中過ごされることが多く、部屋は寝る為のものというのが現状です。	居室は家族と利用者が相談しながら使い慣れた家具や食器類(湯呑や御椀)、装飾品で自分らしい居室にしている。認知能力が低下した利用者の場合、主に家族や職員が安全で居心地のいい生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表記は大きくして間違わない様にしたたり、自分の場所が分かるように座布団を置いたり、自分で判断できるようにしている。		